

RI・研究所等廃棄物の浅地中処分相当の廃棄体量、余裕深度処分相当の廃棄体量 及びクリアランス対象となる物の量

（200Lドラム缶換算した平成60年度末までの予想発生量、単位：万本）

事業者区分等	余裕深度	コンクリートピット	トレンチ	クリアランス ¹	合計
原子力機構	5.7	19.5	25.8	99.8	150.8
RI廃棄物(RI協会報告)	1m ³ ²	2.8 ³	8.5 ³	14.2 ⁴	25.5 ⁵
大学/民間機関等	0.2	0.1	3.0	1.9	5.2
合計	5.9 ⁵	22.4	37.3	115.9	181.5

- 1 今後変わり得る数字である。
放射性物質として扱う必要のないもの（放射性廃棄物ではない廃棄物を除く）。
- 2 RI協会が保管している使用済線源。
- 3 高エネルギー加速器研究機構の大型加速器の解体廃棄物を含む。J-PARC(高エネルギー加速器研究機構と原子力機構が建設中の大強度陽子加速器施設)から将来発生の可能性のある解体廃棄物は含まれない。

- 4 高エネルギー加速器研究機構の大型加速器を20年後に解体した場合の金属とコンクリートで、充填率を100%と仮定した。
- 5 RI協会の使用済線源は含まず。

本作業部会では、浅地中処分相当として、上記コンクリートピット及びトレンチの廃棄体を対象とする。